



# Lis Blanc

(リス・ブラン)——フランス語で「白百合」

No.87 学報リス・ブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号  
TEL 022-372-3254 URL <https://sendai-shirayuri.ac.jp>

(転用・転載を禁じます) 編集/大学広報室

本号の主な内容

- 01 巻頭言
- 02 学科の「魅力」について
- 04 キャンパスライフ
- 06 白百合祭特別講演報告
- 07 2023年度財務報告・寄付金の御礼
- 08 2025年度学生募集について



## すべての人に対して、すべてとなる

カトリック仙台教区司教  
ガクタン エドガル

何年前か、初めて函館市内を訪れ、元町にあるシャルトルの聖パウロ修道女会の修道院を道から眺めながら、1878年、フランスからやってきた修道女3人がこの地で教育と福祉の奉仕を始めたことに想いを馳せました。3年前、仙台教区の司教になって、そのスールたちにつながる仙台白百合女子大学で修養会の講話とミサを行ったことがあります。私にとって忘れられない思い出です。

シャルトルの聖パウロ修道女会は5つの大陸にまたがる40カ国に存在します。修道女たち(スールたち)は、最初の使命に忠実でありながら、教育と福祉の奉仕に励んでいます。スールたちの奉仕活動の源は、次の言葉で表現されています。「キリストの愛は、その優しさと善意をすべての人と分かち合うために、私たちを駆り立て続けている。」これは、聖パウロの言葉です。聖パウロは初期キリスト教の使徒です。彼がさまざまな共同体に宛てた手紙は、新約聖書の重要な部分を形成しています。聖パウロの数々の名言は、時代を超えて共感されています。目的に向かうためには、宗教的な信仰、あるいは、世俗的な信念が必要です。今日の世界は多くの「違い」を抱えています。最近、仙台市内でも多言語、民族の違いが顕著に認められるようになりまし。仙台白百合女子大学が目指す「一人ひとりの『いのち』が輝く」教育の土台は、「違い」を認める信念だといっても過言ではないと思います。「一人一人が私と同じように

尊い価値があり、かけがえのない大切な存在である」という意識は、多様性を認め合う前提です。

「すべての人に対して、すべてとなる。」これも聖パウロの言葉です。この一句を理解するためには、当時の文脈を読み取る必要があります(コリントの人々への第一の手紙9:19-23)。当時は、身分や宗教の「違い」が、交わりを阻んでいました。しかし、聖パウロは自分自身が異なる文化の人々のところに出かけ、「違い」のある人々と出会おうとしました。

先日、カトリック元寺小路教会で、研修会が開かれました。ダイバーシティ・エクイティ&インクルーシオン(DEI)を研究されている講師の方から、東北における大震災後の外国出身の方々の報告がありました。この話題は、私にとって他人事ではありません。私は、34年前、フィリピンから来日しました。そして、東日本大震災後、カトリック教会の派遣により、当時住んでいた大阪を離れ、外国出身の被災者を支援するために岩手県に来ました。大震災から13年、彼らの多くは被災地に残っており、共生社会の実現は課題の一つです。「国際社会」とは、私たちの身近にある現実です。今の時代は、同じ地球に住む市民であるという意識を持ち、地域に寄り添い、世界にはばたく女性が求められています。「一人ひとりのいのちが輝く大学」を目指す仙台白百合女子大学に関わるすべての人々のためにお祈りを申し上げます。

## 子ども教育学科の特徴

子ども教育学科長

三浦 主博



「子ども教育学科」の前身である「人間発達学科」は、1996年に本学が四年制大学としてスタートした時から開設されています。2003年に「保育士」の養成（22年目）、2007年に「幼稚園教諭」の養成（18年目）、2013年に「小学校教諭」の養成（12年目）を開始し、多くの卒業生が保育、教育の現場で活躍しています。昨年度、教育に特化した学科である「子ども教育学科」に改組し、新たに「中学校教諭・英語」の免許も取得可能になりました。

「子ども教育学科」は、キリスト教の愛の精神に基づく本学の「人間の理解と援助」の建学理念に立ち、教育・保育学を学び、子どもの発達を理解、援助・支援し、実践することを通して、職業のための教育とよりよい人間形成を目的としています。

「子ども教育学科」の特徴としては、幼児教育と初等・中等教育の連携・接続を視野に入れながら、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭の資格免許を取得できることです。卒業後に、それぞれの教育・保育現場で十分な力を発揮できるように、1年次から実践力を身につけられるようなカリキュラムを編成しています。1・2年次の「一日観察実習」では、学生たちが実際に、幼稚園、保育所、小学校、中学校に

おいて保育・教育現場において子どもと触れ合う機会を設けており、3・4年次の「教育実習」「保育実習」では、取得する資格・免許に応じて、保育所（4週間・幼稚園（4週間）・小学校（4週間）・児童福祉施設等（2週間）において、それぞれ長期間に渡る実習に参加し、実践的な学びが得られるようにしています。

学内には、主に未就園の親子を対象とした子育て支援施設「ゆりつこ広場」があり、毎月、学生も企画・参加しながら、実践を通して学びを得ています。また、子ども教育学科としては、地域連携にも力を入れており、富谷市との子育て支援に関する連携協定に基づく活動や、昨年度は、仙台市泉区保健福祉センターと連携し、職員の方と学生の共同作業により、検診時に配布する子育て支援に関するリーフレットの作成も行いました。それ以外にも、ゼミ活動として、保育現場での人形劇の上演や、保育現場や教育現場の見学なども積極的に行っており、より実践的な力が身につくような機会を設けています。

こうした学びを経て、資格・免許を取得した学生の就職率は、前身の人間発達学科から継続して6年連続100%であり、これも「子ども教育学科」が誇る特徴の一つになります。



## 心理と福祉をバランスよく学べる学科への招待

人間学部長（心理福祉学科長兼務）

白川 充



人間学部心理福祉学科がスタートしたのは2013年4月ですから、10年が過ぎたことになりました。この間、紆余曲折がありましたが、コロナ禍を乗り越えたあたりから、学科としては落ち着いて取り組みができるようになったと思います。古い言葉ですが、この学科のキャッチフレーズは「聞かれれば「心理と福祉をバランスよく学べる学科」ということになります。

ただ素直に言ってしまうと、ここである心理と福祉には、実は「限界」があります。心理学や社会福祉学を学問として捉えた場合、それぞれ広がりや深みがある分野ですが、本学科では二つの分野の基礎的な部分と中心的分野を学ぶカリキュラムとなっていて、単独の心理学や社会福祉学科に比べると、守備範囲は狭く浅いと言わざるを得ません。

それでも10年にわたる取り組みの中で、心理福祉学科の心理と福祉の学びは「深化（進化）」し、バランスのとおり方、基礎的な部分と中心的分野を効率よく学ぶことについては磨きをかけてきました。また新しい視点も取り入れてきました。

その象徴が卒業時到達目標として「卒業研究」を必修にしていることにあります。「卒業研究」の必修化は心理コースが先行し、

福祉コースが追いつき2024年度卒業生より実現できた取り組みです。これは本学が掲げる少人数教育の到達点でもあります。

もう一つの象徴は「出口」です。大学評価の一つの指標は卒業生がいかに社会で活躍するかにあります。その点で、いまだ10年という若い学科ではありますが、実に多様な就職先と社会貢献がなされています。心理系・福祉系専門職、公務員、一般企業、また大学院進学と多彩です。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率も少人数教育ゆえ受験者数は少ないですが、一定の合格率を保持しています。また公認心理師を目指し心理系大学院に進学する人も一定数います。

小さな大学の小さな学科、その小ささを生かした少人数教育によるきめ細かい指導によって、心理と福祉をバランスよく学び多様な進路を選ぶことができる、ここにこの学科の魅力があります。

## 健康栄養学科の「魅力」について

健康栄養学科長

小嶋 文博



健康栄養学科は、2010（平成22）年に食物学専攻（定員25名）を募集停止し、管理栄養専攻（定員増で80名）のみとなりました。

管理栄養専攻のみとなった健康栄養学科は、国家資格である管理栄養士の養成を主眼に

置いた学科として生まれ変わり、すでに14年が経とうとしています。

管理栄養士養成課程をもつ大学・専門学校は全国で150校を超えており、どの大学・専門学校でもほとんど変わりなく、次のような魅力があると言えるでしょう。

1. 専門知識の習得…栄養学や生理学、臨床栄養学、公衆栄養学など、健康に関する幅広い知識と患者への栄養指導を行うための知識、地域社会の栄養改善や食育、健康促進のための施策などについて学べる。これらによって、実践的なアプローチで人々の栄養管理ができるようになる。
2. 実践的スキル…調理技術や栄養指導技術を身につけられるほか、医療機関や福祉施設、保健所、学校などでの実習を通じて実際の現場での経験を積むことで理論だけでなく実践力・コミュニケーション能力を身につけられる。
3. 研究と倫理…栄養に関する研究を行うための基本的な研究方法やデータ分析の基礎、栄養士としての倫理観についても学べる。また栄養や健康に関する研究やトレンドを学ぶことで、常に最新の知識が得られ、これにより、変化化する社会のニーズに対応できる。
4. 多様なキャリアパス…病院、福祉施設、学校、企業など、幅広い分野での就職の機会があり、また、研究や教育分野でも活躍できる道が開ける。
5. 資格取得…養成課程を修了すると、国家試験を受験でき、合格することで管理栄養士としての資格を得ることができる。

実習を行わせる各臨地実習の事前事後を含めた先生方のきめ細かい指導です。本当にご担当の先生方には頭が下がります。このことは、白百合の特徴として共通で（他学科でもそうなのだと思いますが）、大変残念ながら、これが「魅力」だからといって入学者募集に直接結びついてはいないようです。

しかしながら、学生一人一人を育むきめ細かい地道な教育は、いざれ必ず社会貢献へと繋がります。このことを立証するかのようには、きめ細かい地道な教育を継続してこられた佐々木教授が、この度「栄養士養成成功者」として10月13日に厚生労働大臣表彰を東京で受けられました。学科としても大学としても大変名誉なことです。

過去から現在まで、普遍的な健康栄養学科の「魅力」はこれ（きめ細かい地道な教育）であると思います。これからは、ますます進む少子化の社会情勢に対応すべく、目に見えるプラスαの新たな「魅力」を追加していかなければならないと考えております。

**グローバル・スタディーズ学科の魅力  
 「グローバル・インターンシップ」紹介**

グローバル・スタディーズ学科長  
**山田 恵**



グローバル・スタディーズ学科の最大の魅力は、提携校に1年間留学しても4年間で卒業できるカリキュラムですが、海外

研修科目も充実しています。ひとつは学科開設時より継続して実施している「異文化体験」で、主にアジア圏の文化体験を中心とする2泊3日〜3泊4日のプログラムです。もうひとつが、今回とりあげる、2023年度よりスタートした、主に海外での職業体験を積む「グローバル・インターンシップ」です。長短期の提携校留学に参加しない場合は、これらの2つの科目のいずれかを受講することが学科の卒業要件のひとつとなっており、いずれか初回参加時に大学より10万円までの補助金が支給されています。

「グローバル・インターンシップ」は、その名の通り、主に海外でのインターンシップを体験するための科目ですが、インバウンドを対象とする国内のインターンシップも対象としています。2024年度のインターンシップの行先は、アメリカのサンディエゴ、オーストラリアのゴールドコースト、韓国ソウル、韓国マサン、グアム国際空港、南三陸観光協会の6つの選択肢がありました。期間は、行先と内容によって1週間〜4週間から選択可能です。行先は完全に受講生の希望で決まりますが、インターンシップ先企業様については、本人の希望や語学力を考慮してマッチングが行われます。

昨年に引き続き、今年も10名ほどの学生がインターンシップに参加いたしました。最も期間が長かったのは、アメリカのサンディエゴでの4週間のインターンシップでした。また、今年からスタートした韓国ソウルでのインターンシップでは、日本からの旅行者を支援する通訳としての体験を積むことができた参加者もいました。さらに、グアム国際空港でのインターンシップでは、コックピット内の見学や、搭乗のお手伝いなど、なかなか経験できない貴重な体験を積むことができたようです。

昨年グローバル・インターンシップに参加した4年生からは、「留学では経験できない海外での職業体験は個人の経験としても素晴らしいものですが、就職の面接の際に面接官の方々が大変関心をもってくださり、そのおかげもあって第一希望の就職先に就職できました」との嬉しい声が寄せられております。

グローバル・スタディーズ学科には、「ITビジネス」「イングリッシュ・インターンシップ」「グローバル文化」「共生社会」のバラエティに富んだ4つのスタディーズコースがあります。この科目を受講することが可能です。国際的な体験を積むことで卒業後の進路選択の幅が一層広がるのが学科の最大の魅力だと考えています。



## 交換留学生修了式

7月17日(水) 本学ベルナデッタで交換留学生修了式が執り行なわれました。羅苺瑄さん(台湾・開南大学)の2名の後、留学生から挨拶があり、お世話になった方々への感謝の言葉や留学中に体験したことに関する思い出などが述べられました。



## オペレッタ

人間発達学科4年  
T・R  
(盛岡白百合学園高校)



私たちが人間発達学科の4年生は、前期の授業の中で「11匹のねこ」のオペレッタを行いました。2、3年生の頃から当時の4年生のオペレッタを観て、私達も4年生になったらこんな素敵なものが作れるのかと不安になると同時に、学生主体でいちゃからステージを作り上げたいことを、とても心待ちにしています。施設実習を終えた5月から本格的にオペレッタに取り組み始め、実習の反省や他の授業とも並行させながら、7月の本番まで忙しい日々を過ごしました。授業の時間だけでなく、空き時間にもリーダーを中心に声をかけて集まり、衣装や大道具の制作を行ったり、パート毎の練習に励んだりしました。本番のぎりぎりまでどうしたら子どもたちが楽しんで観てくれるかを考え、みんなで意見を出し合いながら、目線や声のトーンなど細かい演出にもこだわって取り組むことができました。本番当日では、子どもたちが目を輝かせ楽しんでいる様子をステージで演じながらみて、肌で感じ、大きな達成感を味わうことができました。

4年間同じ夢や目標に向かって学び、辛いことも乗り越えてきた仲間と力を合わせてこのような貴重な経験ができ、とても良い思い出になりました。ありがとうございました。



## 学生会報告

学生会長 グローバル・スタディーズ学科3年  
K・S  
(八戸聖ウルスラ学院高等学校)



今年度の学生会活動では、学生生活を楽しく、充実したものを実現するために、恒例イベントの充実を大切にしています。

具体的な取り組みとして、週一回の集会を新たに設け、学生同士の意見交換や活動の進捗を確認する場を作りました。これにより、より円滑にイベント運営ができるようになり、メンバー間の連携も深まったと思います。新入生歓迎会では、構内全体を使ったクイズイベントを開催しました。キャンパス内を歩き回り、各所で出題されるクイズに挑戦する形で、新入生はももちろん、在学生も楽しみながら構内を楽しんでもらえる工夫を凝らしました。また、毎年恒例のYukata Dayも大成功を収めました。今年は出店をしましなど、皆さんが楽しめるような場を作りました。また、浴衣を着て授業に参加できたり、放課後の時間に花火大会を開催したこと、より濃く、楽しく浴衣に触れる機会づくりができたと思います。

皆さまのお力添えがあつてこそ活動だと思っております。ご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

今期には、毎年恒例のクリスマスマスコ会も控えておりますので、これまでの経験を十分に活かして、さらに充実した学生生活を送れるような機会づくりをしていきたいと思います。

今後とも、学生会活動へのご協力をよろしく願っています。

## 留学生紹介

I・S

## 新しい学びと経験の始まり

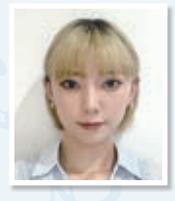
こんにちは！私は韓国の誠信女子大から来た留学生イム・スヒョンと申します。昔から日本について興味があり、日本語の実力をつけるために留学を決心するようになりました。私の大学からここに留学に来た先輩がなくて、どんな学校なのかとても気になっていたのですが、直接来てみると本当にいいところだと思いました。学校施設が学生たちの便宜を考慮してよく造成されていて、特に図書館がとても気に入っています。興味深い本が多く、雰囲気も快適で、勉強に集中しやすい環境です。先生方も授業にとっても情熱的で、学生と先生の間コミュニケーションが活発だという点もとても印象的でした。学生さんたちも親切でたくさん助けてもらいました。私は外国の歴史や文化を学ぶことに大きな興味があるので、留学期間中に日本の社会と文化についてたくさん知りたいです。これからもよろしく願っています。



白百合祭報告

白百合祭実行委員長 心理福祉学科3年

(第一学院高等学校 高秋校)



K・S

しました。中庭でトラックスタージを設け、来場して下さった方が参加できるようなゲーム企画を行いました。去年に引き続きお笑いライブも行い、その結果、1009人のたくさんのお客様に、ご来場いただき、大盛況で終わることができました。今年は3年生が3人で、2年生がリーダーを務めるという、異例の人数の少なさでしたが、1・2年生ながらも頑張ってくれる後輩と、隣で支えてくれた副委員長2人、そしていつも支えてくれた教職員さんのおかげで最後までくじけずに委員長を全うすることが出来ました。委員長というプレッシャーにも耐えながらいつも楽しく前向きに考えてみんなを引っ張ってきた経験は、これからも私の糧になると思います。当日は、今年のテーマである「UP T O Y O U くあなたらしく楽しめ」のようなたくさんの方の笑顔を見ることができ、達成感と嬉しさがこみ上げ、実行委員会をして良かったと感じました。最後に、白百合祭にご尽力いただきました企業の皆様や地域の皆様、大学関係者の皆様、第57回白百合祭が大成功として幕を閉じられたことを、この場をお借りして、深く感謝申し上げます。



茶道部活動報告

仙台北百合女子大学の茶道部は、

2024年度から本格的に部活動を再開いたしました。茶道部の立ち上げから大変お世話になりました岡崎宗豊先生から引き継ぎをし、新しく小谷宗仁先生を外部講師にお迎えしました。現在は、来る2024年度大学祭のお茶会に向けて、日々ご指導を賜りながら長期的な活動を視野に入れお稽古に励む日々です。10月の大学祭のお茶会は、5年ぶりの学祭茶会です。まだ、お稽古を始めて間もない部員も多い中、棚点前でお客様をおもてなしたい!と意気込み、日々のお稽古に励んでいます。

村田部長や平副部長の勧誘もあり、現在の部員は9名に増えました。小谷宗仁先生からは、お点前以外にも茶道全般の知識をご指導いただき、我々は茶道に魅了されております。美味しい季節の和菓子やお抹茶は、毎回の楽しみです。互いに教え合い学年の壁を超えての普段の部活動では美しい立ち振る舞いやお点前やお作法を学び、茶道の心に触れながら活動しています。



しらゆり健康倶楽部開催報告

心理福祉学科レクリエーションイン

ストラクター養成課程では、毎年近隣地域の高齢者の方々をお招きして、「しらゆり健康倶楽部」みんなで遊んで笑って「健康長寿!!」を、前期3回、後期3回ほど開催しており、今年で4年目を迎えました。

毎回20名以上の方々に参加していただき、企画は、いつも盛り上がりを見せてくれます。中には体力的にあまり企画参加出来ませんが、学生さんとの交流を楽しみに毎年来てくれていてる方もいらつしやいます。

又、参加者の方々の声かけやフォローには、「気遣い」や「優しさ」があり、心温まる雰囲気となっています。

高齢者の方々との関わりは、普段の生活では経験できないようなコミュニケーションや自分では気が付かなかった力を伸ばせるような体験となり、これこそが多世代交流によって得られる貴重な成果だと感じています。



参加して下さっている高齢者の皆様方、毎年たくさんの方の経験をさせてくださり、心より感謝しております。

カトリック研究所の本が出版されました

本書は、キリシタンに関する講演会記録と、東北キリシタン研究会の成果の一端を収めたものです。十編の各著者の専門分野は多岐にわたり、歴史学、女性史学、郷土史研究、博物学、文学、教育学、神学の協働が東北で結実しました。マクロとミクロの視点からキリシタンの実像に迫ろうと試みた本です。

第一部 キリシタン再発見

潜伏キリシタンが問いかけるもの▽高祖敏明/キリスト教の伝来と戦国日本▽平川新/日本のキリスト教受容の諸相をふりかえって▽川村信三/生誕百年の遠藤周作『侍』と東北キリシタン▽山根道公

第二部 東北に息づくキリシタンの足跡  
地域の人々の活動に生きる隠れキリシタン▽高橋陽子/『米川新聞』からみえるキリシタンと地域社会▽佐藤和賀子/福島島のキリシタン▽佐藤芳哉/物語の中の慶長遣欧使節▽川上直哉/カトリック教会における殉教の意義▽加藤美紀  
仙台北百合女子大学カトリック研究所編『東北キリシタン探訪』教友社、二〇二四年三月二五日刊行、全四〇〇頁。



## 《白百合祭》特別講演 「女性村長は躍動する～大衡村の将来構想～」の報告

学生部長 小形 美樹

2024年10月27日（日）、本学OGである宮城県大衡村の村長、小川ひろみ様をお招きし、《白百合祭》特別講演「女性村長は躍動する～大衡村の将来構想～」を、本学講堂において開催しました。本企画は、第一部が小川村長のご講演、第二部が小川村長と本学学生との対話という二部構成で、白百合祭の来場者はじめ多くの方々にご参加いただきました。

開会にあたり、まず、加藤美紀学長から2026年度に本学が創立60周年を迎えることと、そのスタートとして、学生、教職員、同窓会の皆様の投票で決定したロゴマークが発表されました。そして、この場の小川村長をお迎えできたことの喜びが述べられました。

第一部のご講演では、小川村長は、生い立ちと本学で学ぶことになった経緯からお話くださり、お父様の条件にかなう学校が仙台白百合短期大学だったこと、そして、この選択が最高の選択だったと本学にとって大変嬉しいお言葉をいただきました。さらに、卒業後すぐに結婚され三姉妹の母となり、その後、大衡村の教育委員、大衡村議会議員を経験され、大衡村村長に立候補して当選されたというキャリアについて、ユーモアを交えてご紹介くださいました。講演のテーマである大衡村の将来構想については、写真や資料をもとに課題や施策についてわかりやすく説明されたうえで、今後の展望を示されました。もうすぐ135周年を迎える大衡村は豊かな自然環境に恵まれた村で、北海道・東北ブロックで唯一、自立持続可能性自治体とされています。しかしながら、人口減少・少子高齢化は現実問題でもあり、その解決のために、①稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする、②大衡村への新しいひとの流れをつくる、③若い世代の妊娠・出産・子育ての希望をかなえる、④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくるという4つの目標を掲げて取り組んでいます。そして、豊かな大衡村を未来につないでいくために、Well-being（「幸福」「健康」「暮らしやすさ」「住みやすさ」「未来への希望」）を推進しているとのことでした。また、ご講演の最後には、小川村長が大事にしている3つのこと、①あいさつ、②夢をもつこと、③感謝について触れられ、学生の皆さんも大事にしてほしいと締めくくられました。

第二部の学生との対話では、第一部のご講演を拝聴した学科代表学生4名からの質問に対してご回答くださいました。学科代表パネリストは、能方朱里さん（子ども教育学科2年）、鈴木夏叶さん（心理福祉学科4年）、佐藤茉央さん（健康栄養学科3年）、宮崎めぐみさん（グローバル・スタディーズ学科3年）で、私、小形がコーディネーターを務めました。

佐藤茉央さんからの質問「大衡村村長になろうと決意した瞬間やきっかけ」については、教育委員や村議会の副議長という経験をし、女性の視点をプラスして住民の方々のために頑張ろうという思いがあったとお話でした。鈴木夏叶さんの「男女平等、ジェンダー平等が進んでいない地域において、今後女性が活躍していくためには、どのような働きかけが必要か」に対しては、女性が働き続けていけるような環境づくりが大切だと考えていること、また、つい最近、全国の女性首長による会議に出席し、男女平等やジェンダー平等について話し合い、勇気をもって話したことも話してくださいました。能方朱里さんの「これからさらに村長として、ひとりの女性として取り組みたい具体的な子育て支援などはあるか」については、大衡村全体として取り組んでいるさまざまな支援についてご紹介いただきました。宮崎めぐみさんの「大衡村の人口減少・少子高齢化に対応した施策は若者世代を含む在日外国人にも例外なく適用されるか」という質問に対しては、日本では例外なく適用されること、さらに、大衡村においては、子どもの予防接種会場や歯科検診など、さまざまな情報の提供を積極的に行っていることをご紹介くださいました。

講演会の終了時には、仙台白百合女子大学同窓会の氏家幸子会長から「白百合卒業後、信念をもって歩まれてきた道のりを知り、同じ同窓生として誇りを感じた」との感想が述べられ、母校でのご講演に対しての御礼の花束の贈呈が行われました。

お忙しい中、ご講演をいただいた小川ひろみ村長に改めて感謝申し上げます。



# 2023年度 財務報告 financial report

2023年度財務報告・寄付金の御礼

資金収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	915,635,700	915,635,700	0
手数料収入	10,500,000	5,663,600	4,836,400
寄付金収入	9,400,000	10,492,000	△ 1,092,000
補助金収入	195,340,000	195,532,400	△ 192,400
国庫補助金収入	195,000,000	195,199,300	△ 199,300
地方公共団体補助金収入	340,000	333,100	6,900
その他補助金収入	0	0	0
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	14,250,000	15,752,500	△ 1,502,500
受取利息・配当金収入	3,600,000	3,604,018	△ 4,018
雑収入	22,100,000	26,391,900	△ 4,291,900
借入金等収入	608,881,620	608,881,620	0
前受金収入	137,495,000	85,480,000	52,015,000
その他の収入	63,638,480	63,324,630	313,850
資金収入調整勘定	△ 145,925,000	△ 150,311,993	4,386,993
前年度繰越支払資金	162,385,251	162,385,251	
収入の部合計	1,997,301,051	1,942,831,626	54,469,425
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	890,650,000	902,472,477	△ 11,822,477
教育研究経費支出	316,750,000	301,306,072	15,443,928
管理経費支出	86,978,000	89,556,163	△ 2,578,163
借入金等利息支出	6,121,620	6,121,620	0
借入金等返済支出	502,760,000	502,760,000	0
施設関係支出	7,100,000	7,342,500	△ 242,500
設備関係支出	15,500,000	10,410,013	4,739,987
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	83,628,342	86,529,100	△ 2,900,758
(予備費)	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 31,200,000	△ 41,526,162	10,326,162
翌年度繰越支払資金	119,363,089	77,859,843	41,503,246
支出の部合計	1,997,301,051	1,942,831,626	54,469,425

貸借対照表 令和6年3月31日現在 (単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	3,208,327,720	3,321,391,209	△ 113,063,489
有形固定資産	2,807,205,300	2,920,268,789	△ 113,063,489
土地	41,666,199	41,666,199	0
建物	2,203,164,082	2,291,502,280	△ 88,338,198
構築物	3,990,238	4,808,918	△ 818,680
教育研究用機器備品	130,428,568	155,767,668	△ 25,339,100
管理用機器備品	5,454,387	5,946,106	△ 491,719
図書	422,028,901	419,631,769	2,397,132
車両	472,925	945,849	△ 472,924
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	400,000,000	400,000,000	0
減価償却引当特定資産	0	0	0
退職給付引当特定資産	400,000,000	400,000,000	0
第3号基金引当特定資産	0	0	0
その他の引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	1,122,420	1,122,420	0
著作権	0	0	0
その他の固定資産	1,122,420	1,122,420	0
流動資産	107,359,778	232,722,823	△ 125,363,045
現金預金	77,859,843	162,385,251	△ 84,525,408
未収入金	23,496,993	63,638,480	△ 40,141,487
その他の流動資産	6,002,942	6,699,092	△ 696,150
資産の部合計	3,315,687,498	3,554,114,032	△ 238,426,534
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,453,030,130	1,352,201,614	100,828,516
長期借入金	970,964,100	864,842,480	106,121,620
退職給付引当金	482,066,030	487,359,134	△ 5,293,104
その他の固定負債	0	0	0
流動負債	242,069,189	329,417,127	△ 87,347,938
短期借入金	102,760,000	102,760,000	0
前受金	85,480,000	127,925,000	△ 42,445,000
その他の流動負債	53,829,189	98,732,127	△ 44,902,938
負債の部合計	1,695,099,319	1,681,618,741	13,480,578
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	7,876,906,425	7,817,041,129	59,865,296
第1号基本金	7,785,906,425	7,726,041,129	59,865,296
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	91,000,000	91,000,000	0
繰越収支差額	△ 6,256,318,246	△ 5,944,545,838	△ 311,772,408
翌年度繰越収支差額	△ 6,256,318,246	△ 5,944,545,838	△ 311,772,408
純資産の部合計	1,620,588,179	1,872,495,291	△ 251,907,112
負債及び純資産の部合計	3,315,687,498	3,554,114,032	△ 238,426,534

事業活動収支計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (単位 円)

事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	915,635,700	915,635,700	0
手数料	10,500,000	5,663,600	4,836,400
寄付金	9,400,000	10,492,000	△ 1,092,000
経常費等補助金	195,340,000	195,532,400	△ 192,400
国庫補助金収入	195,000,000	195,199,300	△ 199,300
地方公共団体補助金収入	340,000	333,100	6,900
その他補助金収入	0	0	0
付随事業収入	14,250,000	15,752,500	△ 1,502,500
雑収入	22,100,000	26,391,900	△ 4,291,900
教育活動収入合計	1,167,225,700	1,169,468,100	△ 2,242,400
事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	942,560,000	897,179,373	45,380,627
教育研究経費	439,690,000	424,490,450	15,199,550
管理経費	97,388,000	99,959,912	△ 2,571,912
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出合計	1,479,638,000	1,421,629,735	58,008,265
教育活動収支差額	△ 312,412,300	△ 252,161,635	△ 60,250,665
事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
受取利息・配当金	3,600,000	3,604,018	△ 4,018
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入合計	3,600,000	3,604,018	△ 4,018
事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
借入金等利息	6,121,620	6,121,620	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出合計	6,121,620	6,121,620	0
教育活動外収支差額	△ 2,521,620	△ 2,517,602	△ 4,018
経常収支差額	△ 314,933,920	△ 254,679,237	△ 60,254,683
特別収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	0	3,223,716	△ 3,223,716
施設設備寄付金	0	0	0
現物寄付	0	3,223,716	△ 3,223,716
施設設備補助金	0	0	0
特別収入合計	0	3,223,716	△ 3,223,716
事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
資産処分差額	0	451,591	△ 451,591
その他の特別支出	0	0	0
特別支出合計	0	451,591	△ 451,591
特別収支差額	0	2,772,125	△ 2,772,125
(予備費)	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	△ 314,933,920	△ 251,907,112	△ 63,026,808
基本金組入額合計	△ 120,400,000	△ 59,865,296	△ 60,534,704
当年度収支差額	△ 435,333,920	△ 311,772,408	△ 123,561,512
前年度繰越収支差額	△ 5,944,545,838	△ 5,944,545,838	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 6,379,879,758	△ 6,256,318,246	△ 123,561,512
(参考)			
事業活動収入計	1,170,825,700	1,176,295,834	△ 5,470,134
事業活動支出計	1,485,759,620	1,428,202,946	57,556,674

## 寄付金の御礼

2023 (令和5) 年10月1日から2024 (令和6) 年9月30日までの寄付状況をご報告いたします。皆様のご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

### 【寄付者御芳名】(順不同 敬称略)

滋野 純子 横尾 元意 石亀 里佳 大坂 紫乃 平島 和灯 石川 玲子 加藤 千草 神崎 祥弥香 大本 泉 青山 映子  
 氏家 幸子 湊 順子 保坂 亜衣 稗田 久美子 白鳥 裕子 加藤 裕子 渡邊 博子 千葉 よう子 後藤 吉峰 菅原 邦子  
 寺崎 公二 大野 輔 森 清一 渡辺 郁美 熊合 治子 八重樫 政泰 高橋 儀成 渡邊 康博 村上 節 宮崎 正美  
 佐藤 忍 本宮 こころ 西館 富久子 高橋 幸治 佐藤 和徳 高橋 義行 土屋 智晴  
 マイクロアルジェコーポレーション株式会社 有限会社五橋商事 株式会社システムズ 子育てサポートばんそうこう  
 仙台白百合女子大学後援会 匿名12名 同名2名

区 分	件数	金 額
在学生保証人	15	240,000
教 職 員 等	7	930,000
団体・法人等	6	7,950,000
一般篤志家等	3	312,000
同 窓 生	25	1,580,000
計	56	11,012,000

### 寄付金担当 (庶務課)

電話 022-372-3254  
 FAX 022-375-4343  
 E-mail shomu@sendai-shirayuri.ac.jp

# 2025年度 仙台白百合女子大学 学生募集について

※出願の際は、学生募集要項をご確認ください。

## 【一般選抜（A日程）】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
2025年1月6日（月）～1月22日（水） 当日消印有効	2月5日（水）	2月14日（金）

●試験科目

教科	試験科目
国語	現代の国語、言語文化（ただし古文・漢文を除く）
外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰの内容を含む）

●試験場 ①本学会場 ②青森会場【青森県観光物産館アスパム】 ③盛岡会場【マリオス】 ④秋田会場【秋田県総合保健センター】 ⑤山形会場【ヤマコーホール】 ⑥郡山会場【郡山商工会議所】

## 【一般選抜（B日程）】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
2025年2月7日（金）～2月19日（水） 当日消印有効	3月3日（月）	3月7日（金）

●試験科目

教科	試験科目
国語	現代の国語、言語文化（ただし古文・漢文を除く）
外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰの内容を含む）

## 【一般選抜（C日程）】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
2025年2月20日（木）～3月7日（金） 当日消印有効	3月17日（月）	3月21日（金）

●選抜方法 ①書類 ②小論文（総合型問題） ③面接

## 【大学入学共通テスト利用選抜（A日程・B日程・C日程）】

●出願期間および試験日等

	出願期間	試験日	合格発表日
A日程	2025年1月6日（月）～1月24日（金） 当日消印有効	大学入学共通テストを受験	2月14日（金）
B日程	2025年2月7日（金）～2月19日（水） 当日消印有効		3月7日（金）
C日程	2025年2月20日（木）～3月7日（金） 当日消印有効		3月21日（金）

●指定教科・科目 ※大学入学共通テスト利用選抜A日程・B日程・C日程ともに共通です。

学科・専攻	教科	試験科目	
子ども教育学科	国語	『国語』（近代以降の文章）	必須
	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	
	地理歴史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』『旧世界史A』『旧世界史B』『旧日本史A』『旧日本史B』『旧地理A』『旧地理B』『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経済』『旧倫理、旧政治・経済』	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅱ、数学B、数学C』『旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧数学Ⅲ』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
心理福祉学科	国語	『国語』（近代以降の文章）	必須
	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	
	地理歴史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』『旧世界史A』『旧世界史B』『旧日本史A』『旧日本史B』『旧地理A』『旧地理B』『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経済』『旧倫理、旧政治・経済』	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅱ、数学B、数学C』『旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧数学Ⅲ』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
健康栄養学科 管理栄養専攻	国語	『国語』（近代以降の文章）	必須
	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅱ、数学B、数学C』『旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧数学Ⅲ』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
グローバル・ スタディーズ学科	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	必須
	国語	『国語』（近代以降の文章）	
	地理歴史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』『旧世界史A』『旧世界史B』『旧日本史A』『旧日本史B』『旧地理A』『旧地理B』『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経済』『旧倫理、旧政治・経済』	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅱ、数学B、数学C』『旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧数学Ⅲ』『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
	情報	『情報Ⅰ』『旧情報』	

※各科目の記点は100点満点とします。  
 ※『国語』（近代以降の文章）は、110点満点を100点満点に換算します。  
 ※『英語』（リスニングテストを含む）は、200点満点を100点満点に換算します。  
 ※『地理総合/歴史総合/公共』は、2つの出題範囲を解答することで1科目とみなします。  
 ※『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』は、2つの出題範囲を解答することで1科目とみなします。  
 ※選択科目では、本学指定の受験科目のうち、高得点の科目を合否判定に使用します。

お問い合わせ先 入試広報課 TEL：022-374-5014（直通） E-mail：nyushi@sendai-shirayuri.ac.jp